旭川野外彫刻マップ たんさく

2020年版

D. 彫刻美術館
E. 忠別橋公園
エリア

ひっぱる

D 彫刻美術館 エリア

北部の春光地区には中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館があります。白亜の建物は旧陸軍第七師団の将校クラブとして利用されていた旧旭川偕行社で国の重要文化財に指定されています。「近代彫刻の父」ロダンの作品や日本近現代の優れた彫刻家の作品が一望できるのでぜひ訪れてみてください。

たんさく モデルコース CR：サイクリングロード

常磐公園 → 旭橋下CR → 石狩川河川敷
CRを北上 → 花咲大橋 → 彫刻美術館
→ 井上靖通 → 花咲スポーツ公園
→ スタルヒン球場 → 旭町通
ポケットパーク → 旭橋 →
常磐公園

距離：約11㎞
徒歩：約2時間40分
自転車：約1時間30分

★ 中原 悌二郎

（1888−1921） NAKAHARA Teijiro

1888年に釧路に生まれ、幼少期を旭川で過ごす。17歳で画家を志して上京し、荻原守衛の影響で彫刻家に転向する。1912年白樺美術展でロダンの作品に感銘を受け創作活動に励むが、この頃から体調を崩し、保養のため一時旭川に戻る。その後も意欲的に作品を制作出品し、次第に評価が高まる中、1921年病状が悪化し32才の短い生涯を終える。日本近代彫刻史上に欠くことができない優れた彫刻作品を残した。

★ 中原悌二郎賞

旭川市が1970年に中原悌二郎を顕彰し創設した彫刻賞。日本で1年間に発表された彫刻のうち、最も優れた作品に賞を与え、彫刻界の発展に寄与してきた。受賞者は延べ80名を超え、そのコレクションは現代日本彫刻の流れを一望できる優れたものである。（現在は隔年開催）

彫刻美術館 エリア拡大

クラッシックな白亜の洋館でみる
日本近現代の優れた彫刻コレクション。

中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館
9:00〜17:00　観覧料:450円ほか
休館日:月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）, 年末年始
旭川市春光５条７丁目
tel. 0166-46-6277

38 Innocence-Wedge　西 雅秋
1998 鉄・ブロンズ 105×140×140（×2点）
作者は終戦の年に広島で生まれた。ドラム缶が二つ並んでいるように見えるが、鉄とブロンズ製。鉄は原発の冷却パイプに使われるもので、時が経つと錆びて消滅し、それを原型に鋳造したブロンズは残る。朽ちていく時間にも意味がありそうだ。

39 お母さんのひざ　山内 壮夫
1956 コンクリート 108×61×56
「私のおひざにどうぞお座りください」50年代、物資が不足した頃に用いられたコンクリート製の作品です。

40 メビウスの立方体　五十嵐 晴夫
1978 白・黒御影石 94×94×94
白と黒のラインがモダンな幾何学的立方体です。立体でメビウスリングを表現しており、シャープで知的な印象です。

41 知の柱　高岡 典男
1992 白御影石 202×99.5×60.5
横に走る溝は石を割り出すために入れる「矢穴（やあな）」の跡。ごつごつした面や丹念に磨きあげた面に触れてみよう。

42 鳥化する丘　中井 延也
1989 本小松石 160×115×60
台座上部の穿きは周囲の風景を映りこませ、側面の細かな縦筋は心地よいリズムを奏でる。石と徹底的に対話して制作した作者からではのフォルムが魅力。

43 石走る(いはばしる)　寺田 栄
2004 白御影石 75×80×150
流れるように刻まれた幾筋もの溝。雨の日には、岩肌を走り抜けていく雨粒が、時の流れを静かに伝えてくれます。

44 重さのロンド　山谷 圭司
1994 御影石・ステンレス 250×500×500
大きな石と小さな石がロープで繋がっている。小石はわずかに外に傾き大石と力比べをしてるかのよう。ロンドとは輪舞曲のこと。みんなで楽しい旋律を奏でているのかも。

45 少年の夢　北村 善平
ブロンズ 200×220×100
花咲スポーツ公園にふさわしい躍動感のある作品。遠方からも確認できるので駐車場での待ち合わせ場所に便利。お掃除では実業高校の生徒達が大活躍しています。

46 スタルヒン像　本田 明二
1979 ブロンズ 255×75×80
「僕の名前は〈ヴィクトル・W・スタルヒン〉。ロシアからやってきて旭川中学（現・旭川東高）を卒業し、日本のプロ野球史上初めて300勝の大記録を達成しました。旭川球児にここからいつもエールを送っています」

47 塞（さえ）の石組み　山谷 圭司
2000 安山岩 300×510×270
邪悪を遮り、福を招くと村境などに奉られた「塞神」からこの名がつけられました。500kgの巨岩は開拓期から転太石（ころたいし）と呼ばれる上富良野硬石。

37 隼の碑　山内 壮夫
1970 ブロンズ 87×208×120
「隼」は花咲町側、「鶴」は新富町側の橋詰めにあります。そばにベンチがあるのでサイクリングロードから上がり、一休みするのに最適です。「隼」はシリーズ中で最も大きく勇壮です。「鶴」は天にくちばしを伸ばし、飛んだり羽ばたいたりする求愛ダンスを表現しています。いずれも彫刻美術館に作品があり、こちらはブロンズ製ですが、美術館にいる兄弟達は強化プラスチック製で、原型が同じでも印象が違います。ななかまどの木を背にしているので赤い実を目印に見つけて。

36 鶴の舞　山内 壮夫
1966 ブロンズ 190×86×75

70 親和　高橋 清
1974 白御影石 340×225×55
柔らかく素朴な印象で見る人によって、恋人同志にも心の形にもみえてくる石の作品。

71 エゾコキウサギ　明地 信之
2018 白花岡岩 200×90×40
テーマは雪上を走るエゾコキウサギです。2匹のウサギの足元は、雪面に見えるように、ながらく仕上げられています。旭川市彫刻美術館向いの春光園に設置されています。

61 婦人像・昼
1957 ブロンズ 158×50×35

60 人間像・今の存在の像
1964 ブロンズ 171×70×67

「左側の橋詰に立つ私は、3姉妹のコロッケでおなじみの、美術館で唯一お客様を出迎えてくれる、今は彫刻の中にいます。私たちの安定感があって信頼できる感じ。男性像は美形だけど難しそうな性格ねっという評判です。韓流ブームにのり、旭川美男子彫刻ツアー決行か、なんて話しも小耳にはさんだわ」

「僕は神居方面に向かって石側の橋詰にいます。負傷する仲間も多い中、幸せなことに生きてからも無傷で過ごしてきました。これもサポート隊のケアとお市民の皆さまのおかげです。毎月お会いする隊員の方からは（せつな系男子）と定評で（後ろから抱きしめたくなる）とありがたいお言葉をいただき、内心喜んでましたが、情報通のお向かいさんから、近頃は筋肉系が流行りそうよ、頑張って〜）とアドバイスでも優国に全属だし……」

62 三人　山内 壮夫
1954 ブロンズ 186×98×65
人体を面や球といった単純化した要素に置き換え組み合わせています。後ろからも見てください。ひねりの効いた背中、球のお尻など、全方向からの流れとバランスを意識した構成がわかります。

67 チキサニ チョロポキタ　青木 野枝
2004 鉄 300×860×860
作品名は「ハルニレの木の下で」という意味です。「木に見守られるように」という作者の思いと裏腹に、いざ設置という時に台風で多くの木が倒れました。現在、樹木は再生し「紅葉の時は落ち葉に囲まれ大変きれいです」と隊員レポートあり。秋、必見。

トランペットのおんな
神田 北志子
1995 ブロンズ 158×67×100

63 人№13　高橋 清
1973 黒御影石 71×42×32
作者は長年メキシコに滞在し中南米の古代文明の影響を受けました。みっちりと詰め込まれた土着的なエネルギーを感じませんか。

64 家族　山内 壮夫
1955 ブロンズ 164×72×45
若い夫婦が幼子を高々とかかげています。有機的な結合が家族の温かさと絆の強さを感じさせる作品です。

彫刻を支える人たち

ボランティアの会
みゅうず
彫刻美術館の喫茶・物販コーナーを担当するボランティア団体です。彫刻家のオリジナルアクセサリーや書籍・絵ハガキなどのグッズを販売しているほか、コーヒー・紅茶などの飲み物を提供しています。

伝説の B ロダン展

彫刻美術館にあるロダンの「ジャンデール」にまつわるお話。まだ旭川に美術館がなかった1979年、市民文化会館で『ロダン展』が開催された。この展覧会は市民が実行委員会を組織し行われたが、費用が2千万もかかるため、みんな途方にくれ、最初は誰もやりたがらなかった。しかし、どうしてもここ旭川でロダンの作品を鑑賞したいと思った人達は毎日自転車で前売券を懸命に売り歩き開催にこぎつけた。蓋を開けてみると21日間の会期で49,236人（約5万人）の来場者があり『ロダン展』は大盛況に終わった。1日に2,300人以上の人がロダンの彫刻を見に来場したことになる。誰もができるはずがないと思った展覧会の成功は人々に勇気と自信を与え、実行委員会は売上金の一部でジャンデールを買って市に寄付をした。彫刻を愛する人々の熱意は今も脈々と受け継がれている。

約140本もの河川の流れる旭川。
朝夕には美しい光景が広がっています。
河川敷のサイクリングロードは
快適で安全な走行を楽しめます。
お茶やおにぎりと一緒に
「たんさくマップ」をおともにどうぞ。
作品とふれあってみよう！

F 彫刻フェスタ作品　中原賞作品　中原賞作品（代替）　優秀賞作品　優秀賞作品（代替）

素材のあれこれ

石 stone
堅牢で永続性があり、時を経てますます味わい深くなります。古くから石仏や句碑などで用いられ、産地により種類はさまざまです。
20は香川県産を削り彫り研磨しています。
47、51は上富良野産で開拓期に「ころた石」と厄介者あつかいされた石を積み上げ、作品にしています。石の作品27、42、57、70他

金属 bronze steel
ブロンズ：旭川の野外彫刻の半分以上はブロンズ（十円玉の素材）製。原型から鋳型を取り、溶かした金属を流し入れて制作します。ブロンズは銅とスズ（柔かく食器などに使われる）の合金で酸化すると青錆ができます。
鉄：鍬や鎌など、道具として古くから暮しを支えてきました。板や棒状の鉄を熱の力で加工します。酸化すると赤錆がふき、年月を経て変化を楽しめます。鉄の作品5、22、67他

木 wood
何十年何百年をかけ育つ木は古くから神社仏閣の建築や仏像などに用いられてきました。木材が豊富な旭川はクラフトや家具の制作に適し、木工業が盛んです。木は気候の影響を受けやすく永続的ではないため、野外むきではありません。数年に一度防腐剤を塗る必要があります。50

オフロ好き・嫌い
スキ：ブロンズの作品。酸性を帯びた塵やホコリが作品に溜まり、雨で溶けだすと彫刻が泣いているような顔になってしまいます。特に0は木の側にあり鳥の糞やホコリがつきやすいのでこまめにせっせとお掃除。
キライ：鉄の作品。粉状の赤錆が表面を覆っているので水ぶきができずクモの巣や鳥の糞など目立った汚れを落とすだけ。特に0は鉄が錆びて朽ちることに意味がある作品なのでオフロは大嫌い。

E 忠別橋公園 エリア

旭川駅の裏側・神楽地区には旭川市博物館、三浦綾子記念文学館、道の駅などがあり、緑豊かな川辺や公園が広がっています。河川敷の忠別橋公園には現地制作された作品が多く点在し、爽やかな景観の中で彫刻とふれあうことができます。ここから旭西橋へ向かうサイクリングロードでは草花や野鳥も楽しめます。忠別橋や両神橋、神楽岡公園などにも作品があるので足をのばしてみよう。

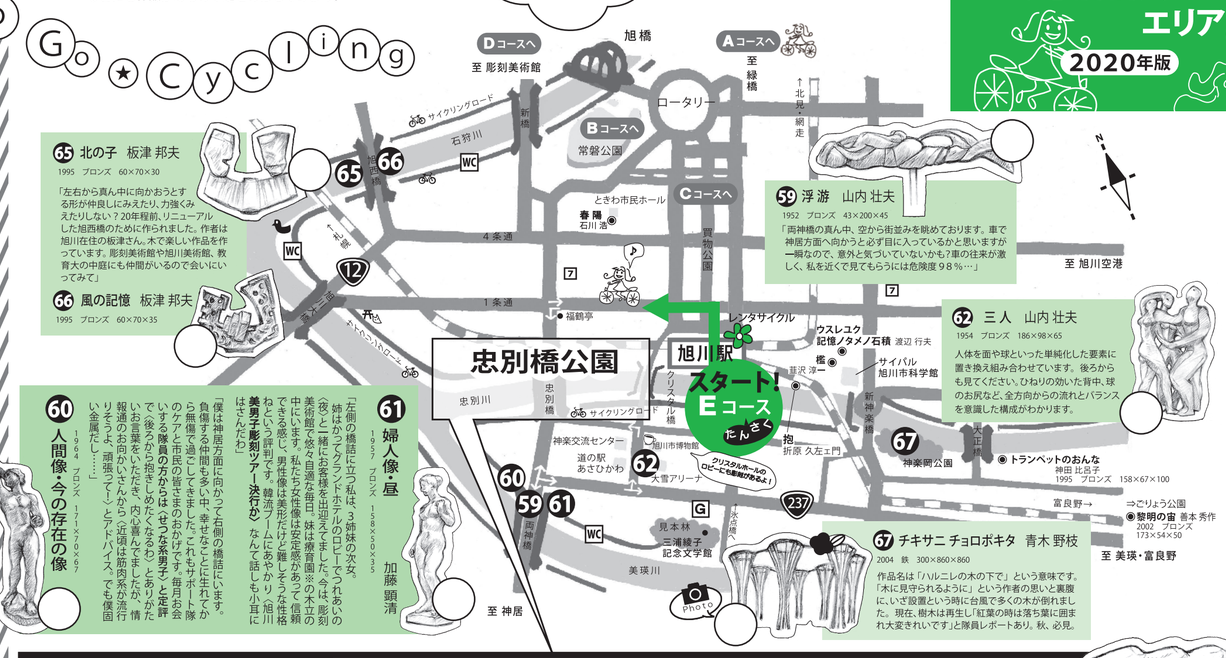
たんさく モデルコース

RC：レンタサイクル
CR：サイクリングロード

足を延ばしてみてね！
旭西橋 ↑ CR 2.7㎞
神楽岡公園 ↑ CR 2.7㎞

旭川駅RC → 1条通 → 忠別橋公園 → 忠別橋
→ 両神橋 → 大雪アリーナ前
→ 忠別橋 → 旭川駅RC

距離：約6.4㎞
徒歩：約2時間20分
自転車：約1時間20分



65 北の子　板津 邦夫
1995 ブロンズ 60×70×30
「左右から真ん中に向かおうとする形が仲良しにみえた！力強くみえたりしない？20年程前、リニューアルした旭西橋のために作られました。作者は旭川在住の板津さん。木で楽しい作品を作っています。彫刻美術館や旭川美術館、教育大の中庭にも仲間がいるので会いにいってみて」

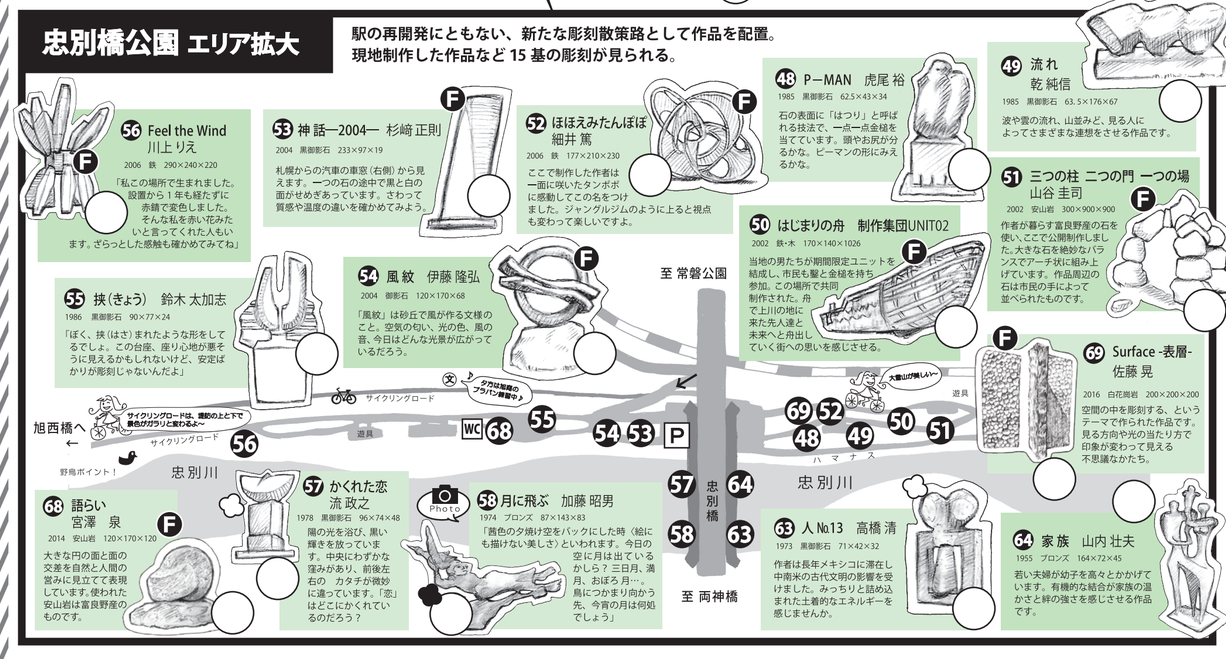
66 風の記憶　板津 邦夫
1995 ブロンズ 60×70×35

59 浮游　山内 壮夫
1952 ブロンズ 43×200×45
「両神橋の真ん中、空から街並みを眺めております。車で神居方面へ向かうと必ず目に入っているかと思いますが一瞬なので、意外と気づいていないかも？車の往来が激しく、私を近くで見てもらうには危険度98％…」

67 チキサニ チョロポキタ　青木 野枝
2004 鉄 300×860×860
作品名は「ハルニレの木の下で」という意味です。「木に見守られるように」という作者の思いと裏腹に、いざ設置という時に台風で多くの木が倒れました。現在、樹木は再生し「紅葉の時は落ち葉に囲まれ大変きれいです」と隊員レポートあり。秋、必見。

忠別橋公園 エリア拡大

駅の再開発にともない、新たな彫刻散策路として作品を配置。
現地制作した作品など15基の彫刻が見られる。



56 Feel the Wind　川上 りえ
2006 鉄 290×240×220
「私この場所で生まれました。設置から1年も経たずに赤錆で変色しました。そんな私を赤い花みたいと言ってくれた人もいます。ざらっとした感触も確かめてみてね」

53 神話—2004—　杉崎 正則
2004 黒御影石 233×97×19
札幌からの汽車の車窓（右側）から見えます。一つの石の途中で黒と白の面がせめぎあっています。さわって質感や温度の違いを確かめてみよう。

52 ほほえみたんぽぽ　細井 篤
2006 鉄 177×210×230
ここで制作した作者は一面に咲いたタンポポに感動してこの名をつけました。ジャングルジムのように上ると視点も変わって楽しいですよ。

48 P−MAN　虎尾 裕
1985 黒御影石 62.5×43×34
石の表面に「はつり」と呼ばれる技法で、一点一点金槌を当てています。頭やお尻が分るかな。ピーマンの形にみえるかな。

49 流れ　乾 純信
1985 黒御影石 63.5×176×67
波や雲の流れ、山並みど、見る人によってさまざまな連想をさせる作品です。

51 三つの柱 二つの門 一つの場　山谷 圭司
2002 安山岩 300×900×900
作者が暮らす富良野産の石を使い、ここで公開制作しました。大きな石を絶妙なバランスでアーチ状に組み上げています。作品周辺の石は市民の手によって並べられたものです。

55 挟（きょう）　鈴木 太加志
1986 黒御影石 90×77×24
「ぼく、挟（はさ）まれたような形をしてるでしょ。この台座、座り心地が悪そうに見えるかもしれないけど、安定ばかりが彫刻じゃないんだよ」

54 風紋　伊藤 隆弘
2004 御影石 120×170×68
「風紋」は砂丘で風が作る文様のこと。空気の匂い、光の色、風の音、今日はどんな光景が広がっているだろう。

50 はじまりの舟　制作集団UNIT02
2002 鉄・木 170×140×1026
当地の男たちが期間限定ユニットを結成し、市民も鑿と金槌を持ち参加。この場所で共同制作された。舟で上川の地に来た先人達と未来へと舟出していく街への思いを感じさせる。

69 Surface -表層-　佐藤 晃
2016 白花崗岩 200×200×200
空間の中を彫刻する、というテーマで作られた作品です。見る方向や光の当たり方で印象が変わって見える不思議なかたち。

68 語らい　宮澤 泉
2014 安山岩 120×170×120
大きな円の面と面の交差を自然と人間の営みに見立てて表現しています。使われた安山岩は富良野産のものです。

57 かくれた恋　流 政之
1978 黒御影石 96×74×48
陽の光を浴び、黒い輝きを放っています。中央にわずかな窪みがあり、前後左右の カタチが微妙に違っています。「恋」はどこにかくれているのだろう？

58 月に飛ぶ　加藤 昭男
1974 ブロンズ 87×143×83
「茜色の夕焼け空をバックにした時〈絵にも描けない美しさ〉といわれます。今日の空に月は出ているかしら？ 三日月、満月、おぼろ月…。鳥につかまり向かう先、今宵の月は何処でしょう」

63 人№13　高橋 清
1973 黒御影石 71×42×32
作者は長年メキシコに滞在し中南米の古代文明の影響を受けました。みっちりと詰め込まれた土着的なエネルギーを感じませんか。

64 家族　山内 壮夫
1955 ブロンズ 164×72×45
若い夫婦が幼子を高々とかかげています。有機的な結合が家族の温かさと絆の強さを感じさせる作品です。

彫刻フェスタ

★ 彫刻フェスタ F
中原悌二郎賞30周年にあたる2000年から、市民による実行委員会が新たな取り組みとして実施しています。1ヶ月にわたる公開制作や体験教室、全国から講師を招いてのフォーラムや彫刻散歩など、誰もが自由に参加できる催しを開催。ダイナミックな制作現場を見学し、人と人とが彫刻を中心に積極的にかかわれる場に成長してきました。

彫刻を支える人たち

★ 旭川彫刻サポート隊
2002年に発足した野外彫刻の清掃ボランティアグループです。市民が街中の彫刻を清掃する最も早い取り組みとして全国的にも注目を受けています。彫刻展鑑賞ツアーや研修会なども実施。作品をお手入れしてピカピカにすると、とても誇らしげに見えてきますよ。一緒にやってみませんか？レッツ、おそうじ！
問合せ：彫刻美術館事務局　tel. 0166 - 46 - 6277

勝手にランキング
おそうじ大変だぜ
ベスト3
1位 — 22
2位 — 13
3位 — 25

編集後記

この「たんさくマップ」は彫刻サポート隊の皆さんが清掃活動をする中から生まれました。隊員ロコミ情報、彫刻たちの咳き、街と彫刻の関わりなどで構成しています。制作を通して、彫刻が日常の中で多くの人々に愛され親しまれることで、はじめて本当の意味で“彫刻のまち”と言えるのだと感じました。普段見れた彫刻たちも、見方を変えて眺めると楽しい会話が生まれてきます。さらに味わい深く四季折々新しい見え方が生まれて欲しい。マップ片手にゴー！

制 作＊旭川彫刻サポート隊
発 行＊中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館
イラスト＊坂井 弘美／旭川実業高等学校美術部
原案＊斉藤 知子
2020年２月改訂
印 刷＊株式会社あいわプリント
問合せ先＊旭川市彫刻美術館内
旭川彫刻サポート隊事務局
〒070-0875 旭川市春光５条７丁目
tel.0166 - 46 - 6277

※ 文章・イラストの無断借用を禁じます

202002-2000

旭川野外彫刻マップ たんさく

2020年版

A. 牛朱別川
B. 常磐公園
C. 買物公園
エリア

ひっぱる